

厚生文教常任委員会行政視察報告

1. 視察日程 平成29年10月4日（水）～6日（金）
2. 視察場所 群馬県吾妻郡草津町役場
長野県北安曇郡松川村役場
3. 視察参加者 阿部 長夫 藤本 治郎 有田 昭二
真砂 矩男 小春 稔 田中 正治
（随行）工藤 靖子 河野 真二
4. 視察事項

【視察テーマ】『草津町の特色ある教育について』

【日 時】10月4日（水）14時～16時

【訪問先】群馬県吾妻郡草津町役場

【対応者】草津町教育委員会教育長 中澤隆

草津町議会議長 桜井伸一 議会事務局長 佐藤剛

【背 景】群馬県吾妻郡草津町は、群馬県の北西部に位置し 面積 49.75k m²
人口 6,447 人 全国的有名な 草津温泉が町の中心有り、全国おん
せん100選に12年連続 1位 年間観光客数も 300万人と観光が最
大の産業である。

生徒数も昭和55年 1,447名をピークに激減 38年後 平成29年
372名とまた、平成35年には 305名と推測され少子化の影響を受け
ている。

その中で教育行政基本理念に「人づくりは、町づくり」を掲げ、
基本方針に「やさしさと いたわりの心をもった自立」のもと、推進
方針「温もりのある きめ細かな教育行政の推進を目指して」で 様々
な施策に取り組んでいる。

【施策内容】

*教育費は、一般会計 約48億円の6.5%

*町内には、中学校 1校 小学校 1校 高校 無し

*教育大綱は無いが、H26からH29 教育振興基本計画を実施

*重監房があった為、人権教育にチカラを入れてきた

*スキー授業 学校横に2コース20m級ジャンプ台 オリンピック選手
を輩出

*観光客が多い為、安全の家を指定 官庁28ヶ所 民間48ヶ所 計
76ヶ所

- * 綺麗なふるさとづくりを目指し、学生による月に1回実施（任意）
- * 図書館の老朽対策等で、危機管理の話しを全国で講演
- * 給食費の完全無料化 私立保育園も無料化
- * 中学生の学生服補助金 半額
- * 児童室を土曜日・祝日 オープン
- * 高校生まで「地域の宝物」と位置付け、1人当りに補助金を交付
 ・H27 1万円 ・H28 2万円 ・H29 4万円 169名
 高校生まで対象にしたので、進路の情報や生活状況等が把握できている
- * 観光客が多いため、安全の家を指定 民間48所 計76
- * 学校支援員 中学校 4人 小学校 2人
- * マイタウン ティーチャー 事業支援 2名
- * 特別支援事業の推進 p11
 保健部局との連携をし、児童の成長をデータ化する
 多動性発育障害の予防 成育環境の関係を重視し始めた。
 5歳児運動検診を精神科医・臨床心理士や日本体育大学の学生とコラボし、データを有効的に使う
- * 生徒指導
 イジメ 9件 アンケートにて 昨年度内にて解消、今年度は未確認
 発見できる目を地域をあげて醸成する
 虐待 11件 県との連携 特に片親家庭で発生 家庭養育に手薄状況
 不登校 10件 専門家を入れて対応 まず、学校にて来てもらう
 義務教育 の9年間は取り戻しはできる その期間を大切にしたい
 引きこもり のち生活保護費は1人 生涯1億円 現在は31件

【所見】草津町は、小さな町の特色を十分に理解して施策を実施している。特に、有名な観光地であり、産業も一次産業より観光業月中心で他地域とは少し違いがあり、保護者も生活スタイルが夜まで仕事に従事しなければならない。

子供達の生活環境も良いとは言えないが、子供達を地域で育てる教育環境の醸成に取り組む事を実施している。生徒の少人数もあり、義務教育は元より高校生までの支援や片親世帯も多い為見守り対策も様々有る。

町長施政方針を『福祉と観光を中心としたまちづくり』とし、「確かな学力の向上と生きる力を育むと共に、より安全な教育環境の構築を目指す」を掲げ、「やさしさといたわりの心を持った児童生徒の自立」の為に取り組んでいる。

障害を乗り越える為、未就学・就学乗り越える子供達の健康データ

を包括的に管理し支援している。保護者にも、十分な説明をする等 理解を得て運用している。

また、地域でも安全の家の設置や美化活動・挨拶運動 等 ふるさとに誇りを持てる子供達を増やす為の支援活動を実施している。この状況を施策して、草津町の施策や取り組む姿勢には、常に町民が主体で有る事を忘れずに、まず、住民の理解を得て行動する事の大切さを見習いたい。施策的には、杵築市も決して負けては無いと思うが、教育長の考え方を教育環境に繁栄されている感想を得た。このことも特色ある施策に繋がる事であろう。



【視察テーマ】『健康長寿の村づくりについて』

【日 時】 10月5日 14時～16時

【訪問先】長野県北安曇郡松川村役場

【対応者】松川村議会議長 白澤富貴子 副議長 佐藤節子
社会福祉文教委員長 勝家尊 副委員長 梨子田長生
議会事務局長 宮澤大介 健康福祉課係長 村山伸一

【背 景】松川村は、長野県の北西部に位置し面積 47.07 k²、明治22年施行されて以来 一度も合併をしていない珍しい町である。人口9860人と人口は横ばいであり、「1万人復活特命係」を設置して人口減少対策に取り組んでいる。また、画家の岩崎ちひろの疎開した村である事から、「安曇野ちひろ美術館」を開設し 館長 名誉市民黒柳 徹子に依頼し「トットちゃん広場」や「安曇野ちひろ公園」を開設、注目度を上げると共に、国内7ヶ所しか無い天然ラドン温

泉を活かし「すずむし荘」等では、村内外からの利用者も多い。また、1人ひとりの健康に対する意識の高い村民性か、平成25年度国勢調査で男性長寿日本一（82.2歳）の村であり、「すずむし保護条例」や「政調安曇野節」復活に取り組む等、生き生きした村づくりを目指している。

国際交流も、台湾 鹿港鎮市と姉妹都市協定を結び子供達の交流等も行う。

医療の状況は、総合病院が30分内4ヶ所・村内12ヶ所の開業医。その中、長野県は、「長野県健康長寿プロジェクト研究事業」～健康長寿要因分析～を実施、・就業率 男性5位 女性9位・高齢者就業率 男性1位・社会活動率 女性14位と活動意欲が見られる。

この事から、県民性として高い就業意欲と積極的な社会活動への参加意欲の中、1人ひとり健康に対する高い意識を持っている。

また、医師等 専門家の地域活動が活発で、健康ボランティアが住民との橋渡し役として、その活動を持って支えた。

【視察内容】

予防を目指し、H24 特定健診と特定保健指導をセットで実施。

保健補導員は、昭和20年頃から自主的活動として始まり、昭和37年 発足 現在は110名 延2000名以上が参加し女性の2～3人に1人経験していて、健康教室や健康診断申込書の配布、呼びかけをしている。

食生活改善推進協議会は、スローガン「私たちの健康は私たちの手で！」を掲げ、昭和45年に発足、現在26名の会員で、減塩運動をきっかけに家庭から地域へ伝える事を目的している。

活動は、栄養改善料理講習会や親子の料理教室 等で健康づくりの支援。

介護予防事業としては、

- ・いきいきフラミンゴ 介護認定を受けてない人 65歳以上 週1回 体操等
- ・水中運動検診教室 介護認定を受けてない人 65歳以上 2週1回
- ・晴ればれ教室 要介護・要支援になりそうな人に3年毎 週1回 9会場

チェックリストを配布、結果のもと包括支援センターが対応村には、住みやすい風土が備わっている。降雪量も少なく、JRの駅が3つあり、国道が通っている。出生率も横ばいで毎年60名程度・死亡率が低い・転入者が増えている 健康寿命いちばんの施

策として、信州大学と連携して科学的に調査を実施いきいき松川
21 等 協働

第6期老人福祉計画基本目標

～生き生きと笑顔で暮らせる健康長寿村を目指して～

【所見】今回、男性長寿日本一の松川村の視察に際して、松川村は健康長寿に向けて様々な取り組みを行っていることを村の担当者、村議会議長等の話を聞いて実感した。まず健康には予防が大事であることから、健康診断率を高めるために保健指導員の活動を活発に行ったり、食生活改善指導を活発に行っている。また高齢者の介護予防では、フラミンゴ教室、水中運動教室、晴ればれ教室の大きな3つの事業を積極的に取り組んでいる。特に印象に残ったのが、議長の話の中で松川村は人口が一万人弱で小さな村なので、みんなが仲良く助け合って地道に生活をしている。年1回村民が楽しみにしている村民大運動会や毎年8月の第一土曜日のふるさとまつりを実施したり、松川村には老人クラブがないので、代わりに行政区ごとにふれあい会があり、地区ごとにそれぞれの役員やボランティアが協力して地域活動を行っているとのことであった。このようなことから松川村の男性長寿日本一は、長野県の健康志向の高い県民性と合わせて、松川村の様々な取り組みが長寿日本一の村になったのではないかと考える。

